

【特別体験会】

職場で問題解決力とチーム力がアップするセミナーのご案内

問題解決が進む 3 つの会議 『解決会議・本質解決会議・質問会議・』

会議をしながら問題解決と研修(学習・能力開発)ができればいいと思いませんか？
「職場で実践すると、問題解決力と個人の学習力とチーム力の3つがアップする」会議
を紹介します。現実の問題解決で成果を上げている実践的で効果がすぐ出る3つの
会議手法です。本セミナーでは、その会議を実際に体験しながら、その進め方を習得
することができます。

3つの会議は、以下のような場面で役立ちます。

- 中小企業の社長(経営者)・幹部の方で経営会議、幹部ミーティングを行うとき。
- 社内で横断的なプロジェクトや委員会でリーダーとしてミーティング(会議)を行うとき。
- 管理者・監督者、リーダーが職場(チーム)で問題解決ミーティングを行うとき。
- 企画管理部門のスタッフが全社会議や部門横断の会議を行うとき。
- 社内や職場内で現実の問題をテーマにして継続的な勉強会を行うとき。

- 目 的：①職場での打合せ・相談や会議・ミーティングの現状を振り返る。
②職場で活用できる3つの会議の進め方を体験学習する。
③3つの会議の職場での活用法を考える。

対 象：○経営者・経営幹部及び事業所などの拠点組織の責任者
○経営企画室や管理部門の管理職・スタッフ ○企業の人事・教育担当者

講 師：五十嵐 仁〔株式会社インタフェース 代表取締役〕人材開発トレーナー
NPO日本AL協会認定シニア・アクションラーニングコーチ、日本報連相センター北海道支部長。

- セミナー概要** ◇日 時：平成 27 年 9 月 28 日(月) 13:15 受付 13:30 開始 17:00 終了
◇場 所：(株)インタフェース 会議室
札幌市中央区北 2 条西 26 丁目 2-18 26WESTビル 2F
◇参加費：【特別体験会】無料
◇定員：最大 8 名まで(最少催行人数 5 名)
◇申込み方法：下記申込書に必要事項ご記入の上、FAX 又はメールでお申込み下さい。
お申込み受付後、確認のご連絡をして、セミナー前のご案内を送付します。
◇問合先：株式会社インタフェース 電話 011-632-7815

セミナー参加申込書

※下記にご記入の上、FAXで送付ください。FAX 011-632-7816

ご氏名			
会社名・部署役職			
連絡先電話番号		メールアドレス	
会社住所			

セミナー内容

時間	プログラム内容
13:30	セミナー開始 オリエンテーション 講師自己紹介
13:40	■職場会議の現状を振り返る【対話方式のレクチャー・グループミーティング】 対話コミュニケーションの基本～議論から合意へ【傾聴・質問・合意】
14:00	■3つの会議のポイントと特徴【対話・共有と共感・チーム力】 ①「問題の議論」から「解決創造」へ。『解決会議』 ②「意見会議」と『質問会議』
14:30	③ハイブリット型『本質解決会議』
14:40	『解決会議』（ソリューションミーティング）の体験セッション 進め方の説明と会議実践（約40分） 『質問会議』（アクションラーニング）の体験セッション 進め方の説明と会議実践（約70分） 『本質解決会議』活用方法の紹介
16:40	職場での活用と質疑応答
17:00	セミナー終了

問題を解決し、コミュニケーションを深める「3つの会議」とは

その1『解決会議』（ソリューションミーティング）

【ソリューションフォーカスの「リフレクティング・チーム」を基にした会議】

課題に取り組む本人【主役】が、自らの課題（解決したいこと、何とかしたいこと、改善点・問題点など）を発表し、グループメンバーからの多様な視点でのアイデア・具体策をもらって、検討するミーティングで、ポジティブ思考によるアプローチです。

メンバーの様々な視点からの意見・アイデアにより問題解決の見通しをつけて本人のやる気を高めて解決も促進する。

その2『質問会議』（アクションラーニング）

【アクションラーニングのミーティングセッションを基にした会議】

事業や職場で実際に起こっている問題を5～8名のチームで共有、検討して、メンバーの多様な視点や思考によって真の原因（本質的な問題）を明らかにして、解決策を立案して実際に行動して解決していきます。

- ①問題の関係を多面的にとらえて全体最適の（根本的な）解決策ができます。
- ②メンバーの合意納得を得てモチベーションが高まります。
- ③解決策が実行されかつ、必ず振り返りを行います。

その3『本質解決会議』

【解決会議と質問会議の両方のメリットを活かしたハイブリット会議】

- ①参加者全員で問題の現状と課題について共有化する。
 - ②問題の本質（最重要問題又は解決のキーファクター）の検討と課題の再設定。
 - ③解決の具体策、アイデア、ヒントを自由に発想し出し合うサポートタイム。
 - ④課題提示者が解決行動の選択と決定。
- ◎チームの力で、問題の把握が深まり、適切な課題解決に取り組むことができます。